

## 平成31年度中野区立学校における学校教育の指導目標

### I 指導目標

中野区立幼稚園及び小・中学校(以下「学校」と表記する。)では、「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」という中野区教育委員会の教育理念のもとに、教育目標の実現を目指し、生涯にわたり平和を愛し自由を尊ぶとともに、規範意識の高い、心身ともに健やかな幼児・児童・生徒の育成を図る。

そのため、各学校では、教職員の協力体制を整え、指導力向上を目指した研修を充実するとともに、家庭や地域社会との密接な連携・協働のもと、幼児・児童・生徒を共に育ていく特色ある学校づくりを推進する。

### II 基本方針

#### 1 生命を大切にす教育の推進

学校の教育活動全体を通して、生命を尊重し、心身ともに健康に生活する態度を育てる。

- (1) 生命の大切さや尊さ、生きることのすばらしさを理解させ、自己肯定感や自己有用感を高めるとともに、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を育てる。
- (2) 心身の発達や健康の状態を理解させ、心と体の健康づくりに励む態度を育てる。
- (3) 安全への関心を高め、自ら進んで安全に生活する能力や態度を育てるとともに、家庭や地域と連携して、事故防止と安全確保の徹底を図る。
- (4) 自然環境や資源の有限性などについての学習を充実させ、自らの生活のあり方について考え、持続可能な社会を築こうと実践する態度を育てる。

#### 2 人権を尊重する教育の推進

学校の教育活動全体を通して、人権尊重の理念を正しく理解させ、思いやりの心や規範意識、社会の一員としての自覚や態度を育てる。

- (1) 人種、民族、性別等の違いによる偏見や差別をなくし、一人ひとりの人権を大切にす精神を養う。また、いじめの未然防止に向け、道徳教育の充実や体験活動の一層の推進を図り、豊かな人間性や社会性を育むとともに、一人ひとりの心に寄り添ったきめ細やかな指導を展開し、いじめの早期発見・早期対応を継続的・組織的に行う。
- (2) 障害のある幼児・児童・生徒への理解を深め、一人ひとりに応じた適切な指導及び必要な支援を行い、共に生きる力と態度を育てる。
- (3) 学校・家庭・地域の連携のもとに、社会体験や交流活動等を通して、自他の権利を重んじ、義務を果たそうとする態度を育てる。

#### 3 生きる力を育む教育の推進

学校の教育活動全体を通して、家庭、地域と連携を図りながら、変化の激しい予測困難な社会において、よりよい社会と幸福な人生の創り手となるために必要な知・徳・体の力をバランスよく育む。

- (1) 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、一人ひとりのよさや可能性を伸ばす教育を一層充実する。
- (2) やさしさや思いやりの心、公德心、正義感、ボランティア精神、国際感覚などを養い、主体的に自らの生き方を考える態度を育てるとともに、豊かな人間関係を育む。
- (3) 体育・健康に関する指導を一層推進し、体力向上や自ら健康を保持増進する意識・実践力を育てる。
- (4) 自ら学ぶ意欲や創意工夫し課題を解決する力、コミュニケーション能力などを培い、一人ひとりの自己実現を促す。

### III 平成31年度の重点

- 1 発達の段階に応じて人権教育及び道徳教育を一層充実させ、自他の生命を相互に尊重し合い、多様性を認め合いながら共に生きていこうとする豊かな心の育成及び人間関係づくりに努める。
- 2 児童・生徒の主体的・対話的で深い学びを展開するための授業改善に取り組むとともに、一人ひとりに応じた補充的な学習の実施やICT機器を効果的に活用した学習の充実、家庭と連携した学習習慣の定着を通して、学力の向上に努める。
- 3 望ましい生活習慣や運動習慣の確立と体力・運動能力の向上に向けた取組を充実させ、健やかな体の育成に努める。
- 4 幼稚園・保育施設等、小・中学校における相互の連携・協働活動の推進及び各中学校区における保幼小中連携教育の一層の充実を図るため、各学校段階において発達の段階や学びの連続性を踏まえた、意図的・計画的な教育課程を工夫し、具体的な教育活動を展開する。
- 5 教育課程の編成に当たっては、幼児・児童・生徒や学校、地域の実態、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や教科等横断的な視点、PDCAサイクルによる改善点及び人的・物的な体制の確保等を基に、組織的・計画的に教育活動の質が向上するよう努める。(カリキュラム・マネジメント)
- 6 次年度に開催を控える東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を踏まえ、多彩な取組により、幼児・児童・生徒のオリンピック・パラリンピックへの関心をより高めるとともに、これからのグローバル社会に求められる5つの資質(①ボランティアマインド ②障害者理解 ③スポーツ志向 ④日本人としての自覚と誇り ⑤豊かな国際感覚)を重点的に育成するよう、各園・校におけるオリンピック・パラリンピック教育を一層充実させる。

## 平成30年度中野区立学校教育の指導目標（新旧対照表）

平成31年度	平成30年度
<p><b>I 指導目標</b>                      中野区立幼稚園及び小・中学校（以下「学校」と表記する。）では、「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」という中野区教育委員会の教育理念のもとに、教育目標の実現を目指し、生涯にわたり平和を愛し自由を尊ぶとともに、規範意識の高い、心身ともに健やかな幼児・児童・生徒の育成を図る。                      そのため、各学校では、教職員の協力体制を整え、<b>指導力向上を目指した研修を充実するとともに、家庭や地域社会との密接な連携・協働のもと、幼児・児童・生徒を共に育てていく</b>特色ある学校づくりを推進する。</p>	<p><b>I 指導目標</b>                      中野区立幼稚園及び小・中学校（以下「学校」と表記する。）では、「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」という中野区教育委員会の教育理念のもとに、教育目標の実現を目指し、生涯にわたり平和を愛し自由を尊ぶとともに、規範意識の高い、心身ともに健やかな幼児・児童・生徒の育成を図る。                      そのため、各学校では、教職員の協力体制を整え、研修を充実し、<b>家庭や地域社会と密接な連携を図りながら、特色ある学校づくりを推進する。</b></p>
<p><b>II 基本方針</b>                      2                      (1) 人種、民族、性別等の違いによる偏見や差別をなくし、一人ひとりの人権を大切にす精神を養う。また、いじめの未然防止に向け、道徳教育の充実や体験活動の一層の推進を図り、豊かな人間性や社会性を育むとともに、一人ひとりの心に寄り添った<b>きめ細やかな</b>指導を展開し、いじめの早期発見・早期対応を継続的・組織的に行う。                      3 生きる力を育む教育の推進                      学校の教育活動全体を通して、家庭、地域と連携を図りながら、変化の激しい<b>予測困難な社会において、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる</b>ために必要な知・徳・体の<b>力をバランスよく</b>育む。                      (4) 自ら学ぶ意欲や創意工夫し課題を解決する力、コミュニケーション能力などを培い、<b>一人ひとりの</b>自己実現を促す。</p>	<p><b>II 基本方針</b>                      2                      (1) 人種、民族、性別等の違いによる偏見や差別をなくし、一人ひとりの人権を大切にす精神を養う。また、いじめの未然防止に向け、道徳教育の充実や体験活動の一層の推進を図り、豊かな人間性や社会性を育むとともに、一人ひとりの心に寄り添った指導を展開し、いじめの早期発見・早期対応を継続的・組織的に行う。                      3 生きる力を育む教育の推進                      学校の教育活動全体を通して、家庭、地域と連携を図りながら、変化の激しい<b>社会を生きる</b>ために必要な知・徳・体の<b>バランスのとれた力</b>を育む。                      (4) 自ら学ぶ意欲や創意工夫し課題を解決する力、コミュニケーション能力などを培い、自己実現を促す。</p>
<p><b>III 平成31年度の重点</b>  <b>1</b> (略)  <b>2</b> 児童・生徒の主体的・対話的で深い学びを展開するための授業改善に取り組むとともに、一人ひとりに応じた<b>補充的な学習の実施やICT機器を効果的に活用した学習の充実、家庭と連携した学習習慣の定着を通して</b>、学力の向上に努める。  <b>3</b> 望ましい生活習慣や運動習慣の確立と体力・運動能力の向上に向けた取組を充実させ、<b>健やかな</b>体の育成に努める。  <b>4</b> 幼稚園・保育施設等、小・中学校における相互の連携・協働活動の推進及び各中学校区における<b>保幼小中連携教育の一層の充実</b>を図るため、各学校<b>段階</b>において発達の段階や学びの連続性を踏まえた、意図的・計画的な教育課程を工夫し、具体的な教育活動を展開する。  <b>5 教育課程の編成に当たっては、幼児・児童・生徒や学校、地域の実態、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や教科等横断的な視点、PDCAサイクルによる改善点及び人的・物的な体制の確保等を基に、組織的・計画的に教育活動の質が向上するよう努める。(カリキュラム・マネジメント)</b>  <b>6 次年度に開催を控える東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を踏まえ、多彩な取組により、幼児・児童・生徒のオリンピック・パラリンピックへの関心をより高めるとともに、これからのグローバル社会に求められる5つの資質（①ボランティアマインド ②障害者理解 ③スポーツ志向 ④日本人としての自覚と誇り ⑤豊かな国際感覚）を重点的に育成するよう、各園・校におけるオリンピック・パラリンピック教育を一層充実させる。</b></p>	<p><b>III 平成30年度の重点</b>  <b>(1)</b> (略)  <b>(3)</b> 児童・生徒の主体的・対話的で深い学びを展開するための授業改善に取り組むとともに、一人ひとりに応じた<b>補充的な学習の実施やICT機器を効果的に活用した学習の充実、家庭と連携した学習習慣の定着を図り</b>、学力の向上に努める。  <b>(4)</b> 望ましい生活習慣や運動習慣の確立と体力・運動能力の向上に向けた取組を充実させ、<b>すこやかな</b>体の育成に努める。  <b>(2)</b> 幼稚園・保育施設等、小・中学校における相互の連携・協働活動の推進及び各中学校区における<b>小中連携教育の一層の充実</b>を図るため、各学校において発達の段階や学びの連続性を踏まえた、意図的・計画的な教育課程を工夫し、具体的な教育活動を展開する。</p>